

人と都市・観光の地球時代を、市民が支えます！

NPO法人

# JAPAN NOW

## 観光情報協会

Non-Profit Organization JAPAN NOW TOURISM INFORMATION ASSOCIATION

東京都知事が認証した「都市・環境・観光NPO」が発信する隔月刊情報紙

第74号 発行日2010年11月25日

### Contents

長野で講演会	1
札幌講演内容	2
霞が関ニュース、書評(そこが知りたい)	3
アメリカこぼれ話、立教大学・ツアー	4
食にまつわるエピソード、ベルリンのたそがれ	5
城下町と観光、NEW SPOT	6
NPOからの提案、イタリア通信	7
お天気の話、編集後記	8



善光寺(長野)の御開帳は7年に1度行われている。

### 北陸新幹線の開業、

#### リニア実用化で講演会

##### JN協会と郷土発展振興会が12月実施へ

JAPAN NOW観光情報協会(松尾理事長)と郷土発展振興会(本部・金沢。加藤会長)は12月7日、長野市で北陸新幹線の長野・金沢間の開業やリニア中央新幹線の東京・名古屋間の実用化に関連した課題などを分析する講演会を開く。講師のJR東海の須田相談役が「北陸新幹線の長野・金沢間の開業と課題」、加藤会長が「新幹線と金沢の魅力」、JN協会の白澤事務局長が「リニア中央新幹線の実用化」について講演する。長野県知事や長野市長が来賓として出席する。約150人が参加する。

北陸新幹線の停車駅は、長野、飯山、上越(仮称)、糸魚川、新黒部(仮称)、富山、新高岡(仮称)、金沢となり、平成26年度末に開業し、東京・金沢間は大幅に短縮され約2時間30分で結ばれ、首都圏と北陸の人、物の交流が活発になるだろう。リニア中央新幹線は、2027年に東京・名古屋間が実用化されるが、リニアの魅力について講演する。

#### リニア山梨・長野間は直線ルートで

国土交通省の中央新幹線小委員会は、10月20日に開かれ、懸案となっていたリニア中央新幹線の山梨・長野間のルートについて検討し、建設費の負担軽減や運行時間の短縮に効果的な山梨県から南アルプスをトンネルで繋ぐ直線ルートを導入することになった。国交省は、費用対効果の分析や環境調査を行った結果、直線ルートの方が効果的と判断した。

### 航空会社は自由に路線の開設、増便へ

#### 日米がオープンスカイ了解覚書に署名

日米両国政府は10月25日、昨年12月に合意した日米オープンスカイの実施について了解覚書に署名し、発効した。この結果、日米両国の航空は自由化され、航空会社は新規路線の開設、増便、運賃の設定、チャーター便の運航、他企業との提携などが自由に行うことができる。これによって日米間の人、物の交流は一段と強化される。日米空港自由化は、成田空港の発着枠の拡大や羽田空港の国際化が要因となった。

### 北海道の魅力を外に発信し活性化を

#### 札幌の第6回フォーラムで講師が提案

JAPAN NOW観光情報協会は11月4日、札幌市で第6回「21世紀は大北海道圏の時代」(観光立国フォーラムin札幌)を開いた。講師の観光庁の武藤次長が「観光立国と北海道振興策」、北海道開発局の高松局長が「北海道開発計画」、JR東海の須田相談役が「東北新幹線の全線開業と北海道観光」について講演し、北海道の独自の魅力に関する具体的な情報を内外に発信して活性化を図るべきだ、との提案を行った。このフォーラムには、来賓として北海道知事代理、札幌市長代理らが出席し、観光振興策などを説明した。約250人が参加し、盛況だった。参加者には、JN協会が発行した新刊「そこが知りたい 観光・都市・環境」を無料提供した。札幌市の「株えんれいしゃ」が協力し、北海道新聞社が後援した。(講演内容は2面)

## 地方同士の競争の時代へ

観光庁次長・武藤浩氏



昨年7月、現職に就いた武藤氏は、まずホットなニュース、尖閣列島問題と中国の対応について、観光面での影響から話を始めた。

数字はまだ出ていないが、最近是中国からの観光客が大きく減っている模様。地方の観光局などが、旅行業者に「日本への旅行は自粛せよ」と指示しているからだ。一方、台湾や香港からの訪日客は、減ってはいない。この両地域からはリピーターが多く、いわば市民レベルでの交流が根付いているからだと思う。こうした交流こそが、国家レベルの外交を補完し、国の安全保障に役立つはずである。

政府としては今年1000万人そして2016年2000万人、さらには3000万人の来日客実現を目標としている。

そのためには、各地の対応が不可欠。例えば北海道では、観光圏整備事業に5カ所の指定を受けている（全国では45カ所）が、自助努力こそが大切。海外からのスキー客を招くような成功例を増やすことが肝心だろう。

このような国際観光が重要なことは言うまでもないが、国内相手の観光振興こそ、地域振興を目指すうえで重視しなくてはならない。今後、人口が減っていく中で、観光は交流人口を増やことができ、地域の活性化につながるからである。

今後は、国内各地が（観光客誘致で）競争する時代となることは必至だ。北海道は豊富な観光資源を持っているのだから、もっともっと磨きをかけて、国内競争に打ち勝って欲しいものである。



## グローバル化に対応した観光開発を！

北海道開発局長・高松 泰氏



北海道開発の歴史を振り返ってみると、大黒屋光太夫や高田屋嘉兵衛らのロシアとのつながりにまで遡れます。しかし、日本政府の北海道開拓は、1869年の開拓10年計画策定から本格化します。ざっと140年前です。

これを、北海道“開国”第一期というならば、第二次大戦後から現在までに至る60年間は、第二期でしょう。この間に、道の観光基盤は着実に整備されてきました。明治初期には数万人だったと言われる北海道の人口は、今や500万人と言われようになるまで、膨れ上がりました。

さて、これから北海道は第三の“開国”を迎えようとしています。グローバル化が進む中での、北海道の成長戦略は、どうあるべきなのでしょう。私は、食糧基地としての存在価値、観光の国際化がカギを握っていると思っています。

日本の食料自給率が40%を切るという中で、北海道のそれは211%、十勝地方は1000%にも上るのです。日本国民の食の安全を確保するために、さらに食料供給力を強化し、食品加工の高付加価値化を目指すことが、第三の開国の目玉政策の一つとなりましょう。

もう一つが、観光です。北海道には、豊富な観光資源があり、スキーのようなアジアの人たちを引きつける豊かな自然があり、食も魅力の一つでしょう。シーニックバイウエイ北海道と名付けている取り組みは、特色のある地域特性を生かし、各地を繋ぎ、企業や地域の人たちと道開発局が連携し、観光客の訪れやすい北海道にしていく計画なのです。

## 新幹線の札幌延伸まで視野に入れ、北海道観光振興の青写真を！

JR東海相談役 須田 寛氏



北陸新幹線が青森まで伸び、いよいよ函館への延伸が見えてきました。さらには、札幌へという話も現実味を帯びてきました。

そうなる、鹿児島 札幌の直通運転はできないのかと聞かれることがあります。大きく言って二つの理由で、直通運転はしないでしょう。東と西では周波数が違って、その対策に莫大なカネが掛ること、東日本用の車両には耐寒設備が必要だが、それは西で使うには重すぎる、などの理由です。さらに言えば、新幹線を使うには700kgが限度、それを超えると空路となることも、理由となりましょう。

さて、12月4日に東北新幹線は全開通しますが、これによって東京 函館間が、在来線に乗り継いで

も5時間45分と、東京 小倉間と同じ所要時間になります。そのことは、北海道南部と東北地方が広域観光圏として一体化した観光計画が立てやすくなることを意味します。

1972年、山陽新幹線が岡山まで伸びました。いずれは広島、さらには博多へ延伸し、岡山は中間駅になってしまう“運命”だったのです。それにも関わらず、相当前から岡山の人たちは、岡山、倉敷を中心とした四国や山陰までを含めた観光計画を作ったのです。その結果、岡山県への観光客は3倍に膨らみ、その後も高原状態を維持しているのです。

札幌延伸を視野に入れた東北新幹線の開業を機に北海道観光のあり方を、皆さんで考えて戴きたい。

## 東京 電が関発の最新情報 国土交通省・総務省・財務省

### 観光立国を支える人たち

#### 乗り物研究者

小林幸春氏（こばやし・さちはる）

千葉県生まれ。72年3月立教大社会学部卒、日本ユースホステル協会勤務。77年新設のデニーズ・ジャパンに入社。調理から販売促進、大泉支店長などを務め84年に新設のオリエンタルランドに入社。販売促進などをして55歳で退職。61歳。

- 乗り物研究者というので何を研究しているのですか？

小さい時に千葉縣市川に住んで、幼稚園の時に京成電鉄で電車を通うようになりました。最初は母親がついて来てくれたのですが、そのうち母親が車掌さんに頼んでついてこなくなりました。当時はのどかなもので運転室に入れました。車掌さんの膝に乗って運転を楽しんだこともありまして。こうしたことから乗り物に興味が出て、いまだに乗り物は蒸気機関車から飛行機まで関心があります。飛行機に乗ればコックピットに入って見てました。今では考えられませんが。乗り物に興味があるのでいろいろな観光地にも行きます。

- 英国の運河めぐりを家族でしたと聞きました。

新聞かテレビで英国の運河めぐりという観光があるということを知って家族5人で行って来ました。米国のロッキーめぐりかどちらかということでしたが、英国の運河を選びました。英国の運河を船で約1カ月ぐらいかけて回るので。のんびりした旅行です。運河を船で回って良いところがあればそこで降りて観光をするというものです。英国にはこうした運河がたくさんあり大きな観光資源になっていますね。

- ユースホステル協会にはいった動機は何だったのですか？

当時、立教高校で男子だけの学校だったのでユースホステルに行った時に女子大生と一緒にになれるということで協会の活動を一生懸命にしました。そうしたら当時の理事長が職員にならないか、と誘いがありました。当時のユースホステルは200ぐらいあり、そのうち協会が直接運営している30ぐらいありました。ユースホステル活動の最盛期でしょうね。

大分県国東町にあるユースホステルの責任者で行きました。地元ではユースホステルはお客さんで、地元に入りこめなかったですね。それではおかしいと思い、地元で溶け込んだ活動にしなければいけないと理事長に言ったら、ドイツに行って研修に行けということになりました。ところがドイツではビザが下りなくて3カ月ぐらいぶらぶらしてました。この時の経験がその後の観光旅行に役立ちましたね。

- 今まで何カ国ぐらい回りどこの国がお薦めでしょうか？

50カ国を超えているでしょうね。最近ではトルコに女房と一緒にいきました。2週間以上いるようにしています。歳ですので3日ぐらい休養してその国を回ります。日本にいても生活費は1万円から1万5千円ぐらいかかるのでゆっくりしていたほうが良いです。トルコではラマダンにあって食事が出ないのにびっくりしました。こうしたことも面白い経験ですね。（聞き手は経済ジャーナリストの阿部和義）

### 3分野を一冊の本にまとめた意欲作品

「そこが知りたい 観光・都市・環境」



JAPAN NOW観光情報協会は、設立10周年を記念して新刊書「そこが知りたい 観光・都市・環境」を発行した。内容はJN協会が活動目的に掲げている「観光」、「都市」、「環境」の3分野と資料編を加えた4部構成で、意欲的な作品となっている。提案者のJR東海の須田

相談役をはじめ、JN協会の近藤理事が「観光編」を、白澤副理事長兼事務局長が「都市編」を、北村理事が「環境編」を担当して取材、執筆を行った。今年5月からスタートし、本来の仕事の合間を縫って資料、図表、写真も集めながら取り組んだ。観光、都市、環境の3分野を現状・歴史から分析したうえで、将来を展望している。例えば、「観光編」では、日本と海外の紀行文学について考察し、旅の本質は好奇心と一人旅が原点と分析している。そのうえで、観光の将来では伝統的な在来型観光の新展開や、まちぐるみ都市観光の展開を指摘している。

「都市」の現状編では、現在の世界は都市化が進み、本格的な地球エキュメノポリス（地球都市化）時代を迎え、石油や食糧の確保など多くの課題に直面している、と指摘。将来展望では、大東京圏を世界のイノベーションセンターにして上海やグレート・ワシントン、フランクフルト大都市圏などメガリージョン間の国際競争力強化に対応すべきだ、としている。地球都市化の視点からの都市の分析は異色といえる。

「環境編」では、かつてローマクラブが示した「成長の限界」の背景やアメリカの自然保護運動、ナショナルトラスト運動の歩みを見ながらその歴史、現状を展開。将来では環境と観光教育の重要性、担い手の人材育成などが必要と指摘している。

「観光」、「都市」、「環境」は、私たちにとって21世紀の大きな課題であるが、この3分野を一冊の本にまとめた努力と、類書がないという点でも評価に値するだろう。

## アメリカ・こぼれ話

### 「ディズニーの祖先はフランス人」

JN協会理事 北村 嵩

「白雪姫」など数々の名作アニメを送り出し、前代未聞の大テーマパーク「ディズニーランド」を築いたウォルト・ディズニーは最もよく知られているアメリカ人の一人だが、彼がフランス系であることは余り知られていない。父方の祖先ユーク・ディズニーはフランスのノルマンディー海岸の小さな村、イジニー・シュール・メールの出身で、1066年にノルマンディー公ウイリアムがイギリスを征服するいわゆる「ノルマン・コンクエスト」が起こったときに軍に加わり、そのままイギリスにとどまった。フランスの名前にはドゴールやディゾンなどのように頭に“～の”と言う意味のD やDeがつく名前も多く、ディズニーは「イジニーの」という意味の姓で、ユークの子孫がリンカンシャーに定住した後、英国風にディズニーと改名された。1660年代に一族の一部がアイルランドのラウス県に移住した。その子孫、ウォルトの曾祖父、アランデル・イライアス・ディズニーが、1840年代にアイルランドで起きたジャガイモ飢饉の前、1834年に弟と共に、家族を連れてアメリカに移住してきた。一家は、成功の機会を求めて、カナダを始めアメリカ各地で転地、転業を繰り返し、ウォルトは1901年にシカゴの郊外で貧しいプロテスタント家庭の4男として生まれた。幼少期は、父イライアスが農地を購入して住んだミズーリ州マーセリンで過ごしたが、ここでの生活は、後のウォルトの人間形成に重要な影響を

与えた。この町のメインストリートの町並みが、後に、カリフォルニアに建設されたディズニーランドの「メイン・ストリートUSA」に再現されたといわれている。



## The report of Rikkyo activities.

### 秋の山手線ツアー

Nuggets of Hospitality 小野寺由衣

2010年10月3日、山手線ツアーが行われました。前回に行われた山手線ツアーの第二弾です。今回は東京駅から始まり上野、渋谷、新宿へと山手線乗り継ぎました。留学生は韓国人2名、イタリア人1名が参加しました。



まず始めは、東京駅から徒歩で移動し、皇居周辺でサイクリング。カラッとした秋晴れで気持ちよく、絶好のサイクリング日和でした。自転車は無料で貸し出

しており、2人乗り自転車やマウンテンバイクなど好みの自転車を選ぶことができます。参加者全員初めて皇居でのサイクリングを経験して、とても楽しめたようです。

次に上野に移動して、アメ横で昼食をとりました。アメ横の賑わいの中、露店で海鮮丼を食べたり、活気のある雰囲気を楽しんだりしました。昼食後は、上野公園に移動し、スワンボートに乗ったり、大道芸の演劇を楽しんだり上野を満喫しました。

続いては渋谷に移動し、日本で最大のイスラム教のモスク、東京ジャーミール文化センターへと行きました。閑静な住宅街にひっそりと建つモスクですが、建物の中に入ると豪華で色使いの綺麗な装飾がとても印象的です。モスクでの礼拝を見学しました。モスクの中に入る時、女性は髪の毛をスカーフで覆わなければいけません。私たちは慣れないスカーフをまとい、敬虔なイスラム教徒の方の厚い信仰心と礼拝の様子に見入ってしまいました。今回の参加者はキリスト教や仏教になじみのある人が多く、異文化を理解すると同時に自分の生活や文化を知ることができたとてもいい機会になりました。

最後に新宿へ移動し、都庁最上階の展望台で夜景を見学しました。18時頃に見学したのでとてもきれいに夜景が見れてよかったです。今回の山手線ツアーは、皇居やモスクなど初めて行く場所をおりまぜながら、上野や都庁など今までのツアーで行った経験のある場所も含んだツアーとなり、留学生の参加者も学生も楽しめたツアーとなりました。

### 日本唯一のホテル客室常備文化情報誌

## JAPAN NOW

1985年の創刊以来、内外の多くのお客様にご愛読いただいていた「JAPAN NOW」誌は、日英全文対訳で学校教材としてもますます高く評価されています。



4月に完成した2010-2011年度版は、日本全国のホテル約100館、55000の客室に常備されています。

日本文化の再発見を通じて新たな観光資源を紹介し、現代日本を代表する執筆者やカメラマンたちによって日本の歴史といまを生き生きと伝えることが、「JAPAN NOW」誌の編集方針です。

2010-2011年度版では、環境をテーマとした特集において「水」を中心に育まれてきた日本の暮らしのなかの伝統的な環境保全技術や自然とのかかわりを取り上げ、その将来への応用の可能性を探りました。また、巻頭インタビュー・ページでは、インテリアデザイナーの内田繁氏と女優の緒川たまき氏にご登場いただいています。

1部2000円（送料別）で購入できます。

お問い合わせは（株）ジャパン・ナウへ。

電話 03-5155-8940-1751 / FAX 03-5155-8941

## 食にまつわるエピソード

### ハトを食べる

筑波学院大学教授 大島 慎子

ハトは旧約聖書のノアの洪水の時に、オリーブの枝を持ち帰って水が引いたことを教えた使者として愛されてきた。動物学的にもハトは完全一夫（雄）一婦制（雌）で、子育ても協力しあうことから平和な鳥と認識されているという。

私がハト料理を初めて食べたのはエジプトであった。車でカイロ郊外を走っていると、「鳩の塔」（円筒形の細長い塔）が沢山目に付く。その円筒に小さな穴が開いており、鳩がその穴から出入りしていたりしている。食用鳩の飼育場である。鳩の塔は、鳩の飼育だけではなく、塔の下に落ちてたまった鳩の糞は肥料としても使うという。イランに旅行した時も鳩の塔とよばれているのを見たが、イランでは鳩は食用ではなく、糞を肥料に利用するだけである。

さてエジプトの鳩料理は、焼き肉にした物だけではなく、鳩の内臓を取り除いた後に、米を詰めた「ハマーム マフシー」といわれるものがある。これはハトを開いてグリルしたもので皮もバリバリ感があり、手でとってかじるのが地元の流儀である。

第二次大戦後の食糧難の時は、ヨーロッパでは街にいるハトを食べたようだが、現在では街のハトは、体内が鉛で汚染されている。勿論汚染された空気を吸うことにもよるが、屋根のペンキ、自動車のタイヤの破片などからカドミウムにも汚染され、ハトはハト料理用に飼育されたもののみ食用にしている。中国料理ではハトも北京ダックのようにローストして飴でつや出した状態で供されるが、広州料

理のハトの丸焼き「紅焼乳鳩」は内臓からすべてを食べる。

私が3年ほど前に試したときは、20元であった。清王朝時代の宮廷料理にも「脆皮焼乳鳩」つまり、鳩の皮を丸ごと煮たあと、まんべんなくタレをかけ、黄金色になるまでじっくりと焼きあげたものがある。鳩肉にはタンパク質、ビタミンB1、B2、鉄分を多く含むことから、中国では強精食として珍重されている。現在の日本ではハトの捕獲は鳥獣保護法で禁じられている。食用のダチョウの繁殖を試みる農家は日本にあるが、食用鳩の飼育を試す農家はまだ無いようである。



エジプトのハト小屋

## ベルリンのたそがれ

### ゲルマン民族の栄光と挫折

小田急電鉄(株)顧問 利光 國夫  
(元小田急グループCEO)

私の少年時代、子供向けの絵本に「世界の偉人」というシリーズがあった。そのなかに野口英世、東郷元帥などと並んでヒトラーがいた。戦時中の日本では同盟国ドイツの総統は「偉人」だったのである。軍国少年だった私は、世界大戦に敗北し荒廃したドイツを建て直して世界の強国にしたヒトラーを英雄と思って、すっかり心酔してしまった。それからというもの、ヒトラーやナチスに関する本を読み漁り、子供心に将来大人になったら彼のような人物になることを夢見たものである。

日本の敗北によって戦争が終わり、ヒトラーやナチスの実相が次第に明らかになるにつれて、それまで信じていたこととの余りの落差に呆然としたが、やがて自分なりに真実を追究してみようと考えて、より一層このテーマを研究するようになった。あいにくドイツ語は解らないが翻訳された文献や、日本の文献に手当たり次第に目を通し、映画や写真も数

え切れないほど見て、遂には大学ゼミの卒業論文のテーマにしてしまった。

数年前ドイツに出張した折に、ナチス関連の地を幾つか訪ねる機会があった。TVのドキュメンタリー番組などでよく放映されるナチス党大会場のニュールンベルグのツェッペリン広場では、その広さを改めて実感したが、ヒトラーが突撃隊、親衛隊、ヒトラーユーゲント等を前に獅子吼した閱兵台に立ってみると、「強者どもの夢の跡」の想いを深くした。

ナチス発祥の地ミュンヘンでは、ヒトラーが初期の闘争時代にクーデターを実行し、警察隊との武力衝突に敗れたオデオン広場と、彼がしばしば通っていた小さなビアホールを訪ねたが、店の年輩のマダムが「彼はいつもこの席に座っていたのよ」と片隅の席を教えてくれた。

首都ベルリンではブランデンブルグ門のすぐ傍にある復元されたホテルアドロンに宿泊したが、沈みゆく夕陽に染まる門を眺めながら、ゲルマン民族の「千年帝国」を夢見た者達の栄光と挫折に想いを馳せ、まことに感慨無量だった。

## 城下町と観光

## 高知城

## 守りに堅く、4層6階の天守閣

## 高知平野の中心に位置する名城

JN協会参与 長宗我部 友親

土佐の高知はもともと、信濃から岡豊（おこう）に移り、勢力を広げてきた長宗我部氏が、長く治めてきた土地である。

その長宗我部氏が、天下分け目の関ヶ原の戦いで、石田方に与して改易されたため、遠江の掛川城主であった山内一豊が、徳川家康から関ヶ原の戦功として、土佐一国を与えられた。

この改易措置を不満とする者が多く残る土佐の地で、山内が新しい為政者の威信を示すべく、長宗我部の居城であった浦戸を捨て、高知平野のほぼ中央



土佐日曜市

にある、大高坂に造られたのが高知城である。

高知城は鏡川と江の口川に挟まれた中州のような位置にあるため、水害に会いやすく、工事は難航したが、関ヶ原の戦いから

3年後の1603年に完成した。

長宗我部の旧家臣らの一揆が依然続いていたこともあり、城の守りについては、鉄砲の弾を跳ね返す鉄の門を造るなど多くの工夫を施している。徳川政権が続く中、長宗我部の遺臣たちは、農地を捨てて次第に逃げ出し始めた。



高知城

山内家二代藩主・忠義は「定法度条々」を制定するなどし、厳罰で臨んだが、耕地も少なく農民からの年貢の完全徴収は困難で、藩の財政は逼迫した。このため忠義は野中兼山を登用して新田開発を積極的に行い、長宗我部の遺臣も多く登用することとなった。

また、高知には戦いに臨む一豊に、へそくりを提供したという一豊の妻の千代の逸話が残っているほか、「坊さん簪買うを見た」と歌う「よさこい節」などで知られる城下町である。JRの高知駅から南に続く駅前の大通りには南国特有の木が植えられているなど、いかにも黒潮にあらわれる土地という感じが漂う。日曜市も開かれている。



長崎県・壱岐の島の一支国博物館(黒川紀章さんの遺作)

## NEW SPOT

in japan 23

## 一支国博物館

玄界灘に浮かぶ壱岐の島に本格的博物館がオープンし人気を集めている。邪馬台国のころからの歴史を調査・展示する長崎県壱岐市立一支国博物館だ。魏志倭人伝に「一支国」と書かれ「いきこく」と呼ぶ。博物館の前面に広がる田園地帯にある原の辻(はらのつじ)遺跡は国特別史跡で弥生時代に一支国の中心集落だったとされる。壱岐は伊岐、伊伎、伊支、由岐、由吉などとも表記され「いき」や「ゆき」と呼ばれたが7世紀の律令制で壱岐国となり、しだいにその名が広まったという。博物館は古い歴史を示す一支国と名づけた。

島内第一の港町、郷ノ浦から路線バスで30分。展示は現代の壱岐から弥生時代へ歴史絵巻ふうに通り、東アジアの歴史を併記して、対馬とともに中国大陸や朝鮮半島の対外交渉に重要な位置を占めた姿

を浮かび上がらせる。出土品をオープン展示する長崎県埋蔵文化財センターと併設で、県立と市立が一体となった建物は珍しい。原の辻遺跡は主祭殿、穀倉、長老の家など20棟ほどを復元し、外国使節団の宿舎、迎賓の建物、通訳の家などが並び、古代の国際交流がしのばれる。

壱岐へ博多港から高速船で1時間10分ほど、佐賀の唐津東港からフェリーで1時間45分。空路は長崎から30分。海の幸に恵まれ、旅館、民宿は数多い。壱岐の帰りに福岡・大宰府の九州国立博物館、佐賀の吉野ヶ里歴史公園や有田・伊万里・唐津といった焼き物の里などを組み合わせて巡る旅も楽しい。

(写真・文 林 莊祐)

NPOから提案します

市長の観光政策実践論

おもてなし

JN協会理事 加賀市長 寺前秀一

加賀市の観光アクションプランの作成にあたって、職員から「おもてなしの心」を実践するという提案がありました。例えば小学生が観光客に声をかけようという「声かけ運動」です。しかし、従業員教育とは異なり、学校教育で行うべきことかと議論も出ました。知らない人は警戒しなさいということも教育には必要なことです。観光地には様々な人が訪れますから、児童を危険な大人から守ることこそが行政の使命ではないかという議論です。

私は、行政においては「おもてなしの心」はなじめないものと考えていました。公務員を退職した頃、金沢の大学から、欠員教授の穴埋めとして、マーケティング論を教えたことがあります。体系づけた勉強をしたことがなく、多くの教科書を乱読して講義ノートを作成して教えながら考えるという離れ業を行いました。そこで気がついたことは、結局マーケティング論は脳科学に収斂されるということでした。これまで非日常と日常の差は頭の中のことであり観光は人流に収斂させて論じるべきと主張してきましたが、マーケティング論と観光論も土俵は同じであると改めて確認した次第であります。

民営化直後のJR東日本への出向時代、スカンジナビア航空社長ヤン・カールセンの講演を聞きました。おもてなしの心を説いた「真実の瞬間」は当時ベストセラーでしたが、その後SASは倒産しました。JAL等の客室乗務員はお辞儀の仕方まで教育され、おもてなしのハウ・ツーを伝授されていました。その客室乗務員が機内持込手荷物の取扱につき「法律により禁止されています」と法律を強調してアナウンスをしていますが、法律でそこまで細かく規定していません。航空会社の内規で細目を定めているにすぎません。内規が合理的で利用者に納得が得られるものであればいいのですが、以前はあいまいな基準を利用者に押し付けていました。他社便や他路線では認めていた手荷物を機長の判断ということで搭乗拒否にまで突き進んだことがありましたが、運送引受義務とのバランスを失い基準があいまいでした。「おもてなしの心」以前に教育すべきことが行われていませんでした。

ヤン・カールセンに限らず、近年においても著名な観光事業者が各種観光講演会で軽井沢等での成功談をスピーチしています。ノウハウを簡単に教えることに不思議を感じていましたが、若い自社従業員への権威確保という意味ではマスコミ等での活躍は効果的であるようです。従って「おもてなしの心」も安易に語られるのかもしれない。

イタリア通信 その17 -

イタリアでのTax Freeショッピング

中国人が日本人を抜いてベスト・ショッパーに

リーマン・ショック後の経済危機の影響から、旅行や消費市場によりやく回復のみられるイタリア。このほど、Tax Freeサービス会社Global Blue社が、EU圏以外からイタリアを訪れる旅行者の購入額データを発表した。それによると、2010年1月-9月期におけるTax Freeを用いての旅行者のショッピング総額は前年同期比33%増となり景気回復を強く裏付ける数字となっている。



ショッピング総額の国別シェアをみると第1位は「ロシア」で26%。「中国」が11%で第2位となり、日本を抜いた。「日本」

は10%で第3位に。中国の場合は、前年同期に比べ89%増という驚異の伸び率を記録している。さらに、シェアは少ないものの前年同期比で伸び率の高いのは韓国136%増、台湾84%増、香港48%とアジアの国々が並んでいる。その反面、わが日本は伸び率も4%増にとどまっている。旅行者一人当たりのショッピング額についても中国は850ユーロで前年

14%増。日本は600ユーロで前年比6%増。世界各国と比べ日本の景気回復のスピードが追い付かないのだろうか。あるいは日本人の海外でのショッピング行動に変化が訪れているのだろうか。気になる数字である。

いずれにしても、イタリアの旅行者ショッピング市場で、中国人パワーに押され日本人旅行者の影が薄くなっていることは否定できないようだ。ふと振り返ると、10年前、15年前だったろうか。日本人が縦にしても立ってしまう位の札束（現金）を誇示しながらイタリアで買い物をしているという話が時折話題になった。「品がない」と当時は私も眉をひそめたが、今となってはそんな時代が少し懐かしくなってくる。

JAPANITALY.COM社 代表取締役 大島悦子

会員の投稿を歓迎します 情報紙の充実を目指して！！

観光情報紙2011年1月号への個人、団体会員の投稿を歓迎します(400~500文字程度)。皆様のご意見を、どしどしお寄せ下さい。詳細は事務局まで。

発行は2011年1月25日。締め切りは2011年1月10日。

【会員募集】

都市の再生、観光振興、環境保全の市民活動に賛同する会員を募集しています。

個人会員(1口5千円)、団体会員(1口5万円)  
東京都渋谷区代々木1-58-13小田急代々木ビル3階  
JAPAN NOW観光情報協会(電話03-5304-9500)

## 天気予報用語

天気予報を聞いていると「晴れ明け方から雨」や「曇り夜のはじめ頃雨」などと耳にすることがあると思います。このときの「明け方」は03時から06時の時間帯をいい、「夜のはじめ頃」は18時から21時の時間帯をいいます。また筆者が何回か問い合わせの電話を受けた用語に「夜遅く」があります。これは21時から24時の時間帯をいい、24時以降のことと混同されやすい用語といえます。時間を明示してある予報を利用することで、いつ頃から雨が降るか、または晴れてくるかの目安になると思います。

時間の細分	
時刻	予報用語
00時から03時	未明
03時から06時	明け方
06時から09時	朝
09時から12時	昼前
12時から15時	昼過ぎ
15時から18時	夕方
18時から21時	夜のはじめ頃
21時から24時	夜遅く

つぎに「晴れ一時曇り」「曇り時々雨」なども聞いたことがあると思います。これは予報期間内の1/4未満の時間が曇る場合に「一時」、予報期間の1/4以上1/2未満の時間に雨が降る場合は「時々」と発表します。このとき予報期間とは、5時、11時発表の天気予報の「きょうの予報」は「発表時刻から24時」まで。17時発表の天気予報の「今夜の予報」は「発表時刻から24時」まで。明日の予報期間は、「明日の0時から24時」までをいいます。明日の天気が「曇り時々雨」とは6時間以上12時間未満の間に雨が降ることになります。傘が手放せません。以上

日本気象協会 金野雅之

一時	現象が切れ目なく発生し、その時間が予報期間の1/4未満のとき。
時々	現象が断続的に発生し、その時間が予報期間の1/2未満のとき
のち	可能な限り用いないで、具体的な時間帯を示すように努める。 風、波の予報では「のち」を用いてもよい
はじめのうち	今日、明日、明後日に対する予報では、朝の9時くらいまで、 今夜に対する予報では、19時くらいまでとなる。

## 会員名簿

(敬称略) (個人会員名簿は公開していません)

- 名誉顧問 : 松山善三(映画監督)  
 理事長 : 松尾道彦(日本海事センター会長、元日本鉄道建設公団総裁)  
 顧問 : 丹羽晟(前理事長、日本空港ビルデング顧問)  
 副理事長 : 白澤照雄(JN協会事務局長)、岡村進(元小田急トラベル社長)、横山善太(株)JALUX特別顧問、大島慎子(筑波学院大学教授)、小竹直隆(元JTB専務)、須田寛(東海旅客鉄道相談役)  
 支部長 : 片山文彦(新宿)、魚住隆彰(北陸)、麗理沙(立教)、長尾亜夫(九州)、須田寛(中部)、岩田弘三(神戸)、坂本真一(北海道)、梅原利之(四国)、丸森仲吾(東北)、大田哲哉(中国)

## 【団体会員】(2010年11月25日現在)

AGC硝子建材エンジニアリング(株)、(株)朝日ネット、(有)青葉、(株)アドバン、(株)アドルックス、荒井建設(株)、アデス電気(株)、安藤建設(株)、イーエムティー(株)、池田煖房工業(株)、(株)伊勢丹、富山県射水市、(株)井六園ワールド、岩田地崎建設(株)、(株)HKIAクニス、(財)NHKインターナショナル、NPO「江戸城再建を目指す会」、(株)大林組、隠岐の島町(島根県)、(株)奥村組、小田急電鉄(株)、(株)小田急トラベル、鹿島建設(株)、鹿島道路(株)東京支店、大阪国際空港ターミナル(株)、(株)大塚食品、環境テクノス(株)、関西電力(株)、九城企業(株)、(株)九電工東京支店、九州電力(株)、九州旅客鉄道(株)、(株)キャドウ、(株)熊谷組、(株)グリーンキャブ、群馬県、京浜急行電鉄(株)、(株)耕人舎、佐川アドバン(株)、(株)サマサタ「サジャパソリテッド」、三協立山アルミ(株)、三普旅行社有限公司、四国電力(株)、四国旅客鉄道(株)、清水建設(株)、(株)JAL-DFS、(株)JALUX、(株)JTB、消音技研(株)、新菱冷熱工業(株)、(株)センタナショナル、常磐興産ピーシー(株)、住友電設(株)、(有)西洋館センター、竹内印刷(株)、(株)銭高組、全日本空輸(株)、パーキングプロ(株)、セントラルリーディングシステム(株)、(株)ダイエーコンサルタンツ、第一交通産業(株)、第一資材(株)、(株)大気社、大興物産(株)東京支店、大成建設(株)、大成サービス(株)、大成設備(株)大成ロテック(株)、大成ユーレック(株)、大鉄工業(株)北陸支店、大日産業(株)、(株)高商、高砂熱学工業(株)、(株)竹中工務店、(株)丹青社、中国電力(株)、中部電力(株)、TCTレーディング(株)、(株)哲建、電研工業(株)、東海旅客鉄道(株)、東急建設(株)、東京急行電鉄(株)、東京国立博物館、(財)東京観光財団、東京電力(株)、東光電気工事(株)、東芝エレベーター(株)、東北電力(株)、トヨーカネツリソリューション(株)、戸田建設(株)、名古屋鉄道(株)、西日本旅客鉄道(株)、(株)西原衛生工業所、西松建設(株)、日墨ホテル投資(株)、日本オース・エレベーター(株)、(株)日本海コンサルタンツ、日本空港ビルデング(株)、(株)日本航空インターナショナル、(財)日本交通文化協会、(社)日本添乗サービス協会、(株)日本プラント建設、専門学校日本ホテルスクール、(株)ニューテック、ネスレ日本(株)、箱根町(神奈川県)、箱根建設(株)、東日本旅客鉄道(株)、(株)日立ビルシステム、(株)日立製作所、(株)ビッグウイング、広島電鉄(株)、福岡空港ビルディング(株)、(株)ハロックジャパソリテッド、(株)フィールドサービス、富士機材(株)、藤長電気(株)、富士通(株)、フナエワークス(株)、北海道旅客鉄道(株)、北海道電力(株)、北陸電力(株)、北海道空港(株)、(株)ホテル小田急、(株)ホテルメトロポリタン、前田建設工業(株)、(株)ホテルマックス、マインホールディング(株)、(株)まるまんフィオーレ、三井住友建設(株)東京建築支店、三菱電機(株)、(株)山武ビルシステムカンパニー、有楽土地(株)、(株)USEN、横浜貨物総合(株)、横浜ビル建材(株)、(株)ランゲージネット、菱重輸送機エンジニアリング(株)、りんかい日産建設(株)

## 編集後記

JN協会は11月4日、札幌市で第6回「21世紀は大北海道圏の時代」(観光立国フォーラム in 札幌)を開き、道内の行政機関、民間企業の関係者など約250人が参加し、北海道観光の振興について大きな成果を収めた。JN協会は各地でフォーラムを開いているが、札幌でのフォーラムは毎年行われ、多いときには参加者が350人に達するなど、道内の基幹産業である「観光」に対する関心の高さが示されている。高橋知事や上田札幌市長が来賓として出席され、北海道新聞社も後援して記事を掲載している。

これまでの講演の内容は、国土交通省の幹部やJR東海の須田相談役ら講師が観光立国と北海道の観光、新千歳空港や北海道新幹線の現状、将来を展望し、北海道のもう一つの基幹産業である「農業」にもスポットを当てた。また、当協会の専任講師である須田氏が毎回参加者に新刊書を無料進呈し、道内の「須田ファン」に喜ばれている。今年もJN協会が発行した新刊書「そこの知りたい 観光・都市・環境」を無料提供した。来年以降も札幌でのフォーラムを続けたいが、そのときは北海道の発展に効果的な自動車や、いま話題のICT(情報通信技術)による知識情報社会に詳しい方を講師として招きたい。(白澤)

## 特定非営利活動法人(NPO)

人と都市・観光の地球時代を、市民が支えます

**JAPAN NOW**  
観光情報協会

〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-58-13  
 小田急代々木ビル3F  
 電話 03(5304)9500  
 FAX 03(5304)5632  
 E-mail info@japannow.org  
 Home page http://www.japannow.org

発行人: 白澤照雄(JN協会事務局長)  
 編集長: 白澤照雄(JN協会事務局長)  
 発行部数: 3000部 主な配布先: 会員、中央官庁、  
 地方自治体、民間企業、マスコミなど